

ボサギクへの暗期中断処理による出荷時期調整の検討

吉岡孝行
(江戸川分場)

【要約】ボサギクに対する1週間の暗期中断(22時00分～2時00分)は、開花を6日以上遅延でき、無処理区との組み合わせによって約30日間観賞できる。ボサギクは、秋季における花壇、プランターなどへの植栽が可能で、高い観賞性を見込める。

【目的】

1964年東京オリンピックで会場装飾花となったボサギクを、江戸川分場は遺伝資源として保存してきたが、生育・開花などで不明な点が多い。そこで、ボサギクへの暗期中断が開花に及ぼす影響を明らかにし、出荷時期調整の基礎データを得る。

【方法】

分場で保有するボサギク9系統(「黄多摩・白多摩」)を供試した(表1)。各品種とも8月20日に4.5号プラ鉢へ(「黄多摩」は、9月7日に4号プラ鉢)へ定植し、8月27日と28日、先端部約1cmを目安にピンチを行い、露地のベンチ上で管理した(「黄多摩」はピンチ未実施)。9月7日～14日間、ガラス温室内にて22時00分～2時00分暗期中断(白熱灯・電照ランプ60W 高さ70cm, 520LX・波長584nm・CL-500A計測)処理を行い、その後はベンチ上で管理した(暗期中断区と略)。灌水を兼ねて液肥(20-20-20)2,000倍液を施用、緩効性肥料による追肥を2回行い、各品種の開花時の生育状況を調べた。開花は、舌状花が2～3輪咲いた時点を開花とし、半数以上の花枯れ時点で開花終了とした。

【成果の概要】

1. 表1に、ボサギク9種類の開花の生育状況を示した。分場では、白色3、黄色3、樺色、桃色およびクリーム色を各1保存、各品種ともボサギク特有の小さな花(花径4.7cm以下)を多数つけた。「黄多摩」「白多摩」は管状花を持たない品種であった(表1)。「白色②」および「白多摩」で下葉から枯れる症状がみられ、目視による観察からやや弱い草勢を認めた。
2. ボサギクは、10月15日から「樺色」および「桃色早生」で開花を始め、その後「白色①・黄色①」などで順次開花、最も遅い「白多摩・クリーム晩生」は10月28日に開花した(図1)。品種によって開花揃いに差を認め、「桃色早生」で優れ、「白色②」でやや不揃なものとなった(図2・3)。暗期中断区は「白色①・黄色②」など6種類で無処理区より6～7日遅れて開花。「黄多摩・樺色・桃色早生」は、開花遅延が11日と大きく現れた。暗期中断処理が開花期間に及ぼす影響はわずかに現れたが、ボサギク各品種とも約1ヵ月観賞できた。「黄多摩」は暗期中断による開花期間の延長が顕著に現れた。
3. 開花の進行による花色変異は、「樺色」・浅橙 N01602～穏黄橙 N00711, 「桃早生」・浅紫ピンク N09202～鮮紫ピンク N09205 などで見られた(データ略)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

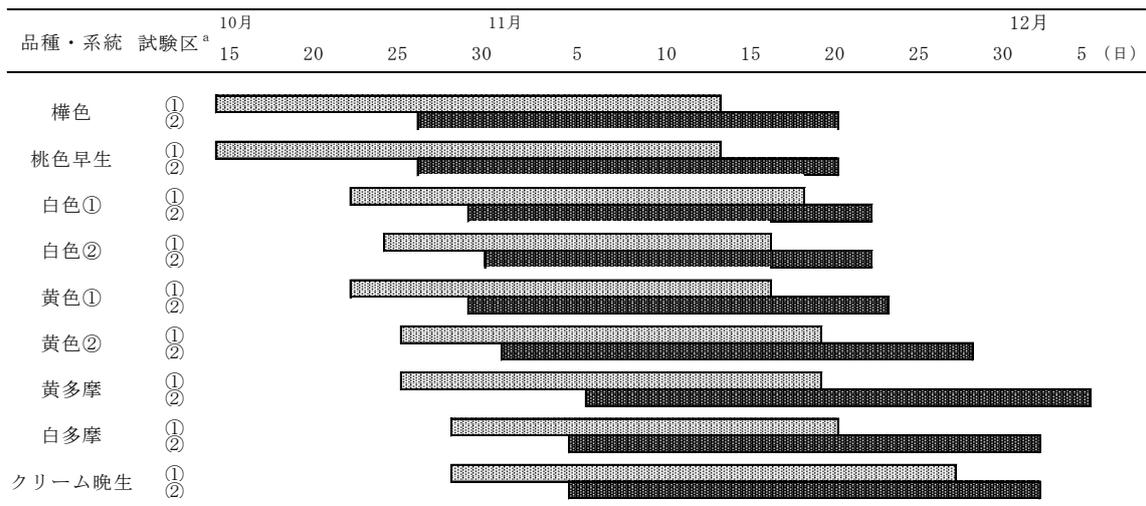
無処理と暗期中断を組み合わせることで、ボサギクは約30日の観賞を見込める。

表1 ボサギク品種の開花時の生育状況

品種・系統 ^a	花色	株高 ^b	株張り	花径	管状花径	舌状花数/蕾
		(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(輪)
樺色	樺色	19.1	28.4	4.6	1.2	48.3
桃色早生	桃色	17.4	28.1	4.7	1.2	49.3
白色①	白色	20.4	29.3	4.5	1.2	34.7
白色②	白色	17.0	30.1	4.2	1.2	31.7
黄色①	黄色	15.5	29.3	4.6	1.2	58.3
黄色②	黄色	18.7	34.8	3.6	-	61.3
黄多摩	黄色	17.5	25.2	3.4	-	151.0
白多摩	白色	23.3	35.8	3.1	0.5	15.7
クリーム晩生	クリーム	19.2	33.5	3.9	1.2	31.3

a)「黄多摩」「白多摩」は、(公財)日野市環境緑化協会より導入。それ以外は、江戸川分場で保有する系統。 b) n=3

図1 ボサギク品種への暗期中断が開花に及ぼす影響



a) ①無処理区 ②暗期中断区 (期間：9月7日～9月14日 中断時間：22時00分～2時00分)



図2 「桃色早生」

左：暗期中断区 右：無処理区

撮影日：2018年10月29日



図3 「白色②」

左：暗期中断区 右：無処理区

撮影日：2018年10月29日